

健康文化

微笑み

今井田 二三子

若い頃、クールで、あまり微笑むこともなく、瞑想に耽っているようなクラスメートを何か神秘的な心が存在しているように思われ、畏敬の念をもって遠くから眺めたこともありましたが、次第に年を重ねるにつれ、いつとはなしに温かい微笑みに心の和むのを感じるようになってまいりました。

実験には失敗し、患者さんの容態は急変して、すっかり落ちこんでいるようなとき、すれ違った知人の微笑みに救われたような思いをしたことも度々ありました。

学生時代、英語の勉強のつもりで出席したバイブルクラスで宣教師の方々の微笑みに接したとき、日本的な微笑みと違った爽やかな微笑みをみて、あの爽やかな笑顔は何処からくるものであろうかと不思議に思ったことがありました。

信仰を持った人は、あのように何の曇りもないさわやかな笑顔を持てるものだろうか……。その問題が未解決のうちに弥勒菩薩の写真がある本の中で発見し、この佛さまも微笑んでいらっしやるとその時感じました。特に笑顔でないのに微笑みが感じられるのは何故だろうか。その頃の私の心は乾いて、絶えずどこかでそのところが潤されるのを求めているのかもしれない。それからまた何年か過ぎて、前に書きましたお師匠さまにお目にかかり、その慈愛に満ちた微笑みに接しました時、弥勒菩薩の微笑みが理解できたように思いました。

人の心を癒し、包み、温められるこの微笑、私の心の中の何かが一つ一つ消え去って、温かく潤ってゆくのを感じました。そのときは、その微笑の力を不思議に思いました。かなり後になってから微笑の一つにも、その人の心の全てがこめられているのが判りました。人々をこよなく愛され、佛心をもって眺めておられるお師匠様から自然にこぼれでる微笑であるのに気づきました。そして私達がお師匠様のお話を聴きに、またお茶の稽古に伺っておりましたお師匠様のお宅（私達にとりましては心の道場）が微笑庵であったことを書き加えます。

微笑庵に伺っておりました私の微笑はどんなものであったのか自分にはわかりませんでした。ただ透明で無心な微笑でありたいと願っておりました。

自分の心を包み隠すような微笑、相手を傷つけるような微笑は決してしてはならないと言いきかせておりましたが、時にそれに近い微笑をしている自分に気付きハッとして恥ずかしくなることがあります。

最後に今も忘れることのできない微笑についてペンを進めます。

その人が地方の病院勤務をしておりましたとき、私の外来日に診察に訪れられたときもニコニコとした表情でした。結果は予想外で早速入院をすすめました。家庭の事情すぐには入院はされませんでした。住まいが病院の近くのため、当直の朝など顔を合わせる必要がありますと、入院のことなど忘れられたかのようにニコニコとして挨拶をしておられました。

重度身体障害のある二人の子供さんと、体の弱い御主人を支えて、その奥さんが唯一人働ける人であるのを知ったのは暫くたってからでした。

その問題の解決に事務所のひとに出向いてもらいましたが、なかなか話が進まないうちに吐血の訴えで来院され、その時も何か、いたずらがばれたときのような、バツの悪そうな顔で、それでもニコニコとしていらっしやいました。

今度は子供さんが施設に入所されることに納得され入院をしてこられました。担当はむろん私になりました。

その人は何時病室にゆきましても苦痛の訴えはなく、何時も微笑んでいらっしやいました。もしかして奇跡がおきたのではないかと私自身の診断を疑いたくなるほどでしたが、やはり奇跡はおきませんでした。

暫くして吐血が度々おきるようになり、その度にあわてふためいて駆けつける私を逆に慰めるかのように、吐血がおさまりますとニコリとして「ありがとうございました」といわれます。

その頃、まだ若くして経験不足の私は、この人には精神的にも肉体的にも苦痛があまりないのだろうか、と疑ってみたこともあり、一方では私などの想像もできない苦悩を乗り越えてこられた偉大な人かもしれないと尊敬の思いで接したこともありました。

そして最後の吐血のとき、それはもう、どうしても止めることはできませんでした。輸血中の血液がそのまま吐出されるかと思われるほどのものでした。その時、その人の頬の筋肉が、かすかに動きました。それは苦痛でひきつったのでも、悲しみで動いたのでもないように私には思えました。必死で微笑もうとされたような気がしました。その動いた筋肉がもとに戻らないうちにその人の息が絶えました。

空しい輸血を止めたことは覚えておりますが、そのあと私は何をしたのか今思いだそうとしても思い出せません。

その人の心の奇跡は、私などの及びもつかない途方もなく大きなものであったのかもしれませんが。

私はそのあと、そして今もなお私自身に問いかけてみます。「最後の時にお前は微笑むことができるか」と。

恥ずかしいことに今もって私の中からは何の返事も返ってまいりません。

(内科開業医)